

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：薬学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>①-1 目標</p> <p>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について 学生・教員・自己の三者による授業評価による授業改善、および、「ベスト・ティーチャー賞」によるインセンティブ向上を目指す。「FDフォーラム」等のFD活動をより活発に展開し、更なる教員の意識向上に努める。これらのFD活動を根拠とする評価から、授業担当者は、従前の既得制を廃し、分野別コーディネータ制を取り入れて、真の教授力を有する教員を選出する。 ○教育方法・内容について e-learning、クリッカー、シャトルカード等、効率的な教授法を啓蒙する。大学病院薬剤部と実務家教員の連携を強化し、実践的かつ機動的な薬剤師(薬学科)教育の充実を図る。 ○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 国家試験の高合格率を維持する(薬学科)。90%以上の大学院進学率(創薬科学科)に耐える基礎的学力の更なる充実をはかる。「キャリアパスセミナー」や「就職セミナー」を開催する。 ○学生支援について 少人数による担任制を更に充実し、学習・生活支援体制の強化をはかる。 ○その他 薬学教育評価機構(薬学科)の第三者評価(本評価)を受ける。</p>	<p>○学生・教員・自己の三者による授業評価および、「ベスト・ティーチャー賞」を実施した。結果は、HP(部内限定)で公表している。 ○全教員参加の「FDフォーラム」等のFD活動実施した(3回)。 ○e-learning、クリッカー、シャトルカード等、効率的な教授法を啓蒙した。シャトルカードの使用はほぼ定着しつつあるが、e-learningとクリッカーの使用については今後の課題である。 ○実務実習を中心に大学病院薬剤部と実務家教員の連携を強化し、実践的かつ機動的な薬剤師(薬学科)教育の充実を図った。 ○「キャリアパスセミナー」や「就職セミナー」を開催し、国家試験の高合格率を維持する(薬学科)や90%以上の大学院進学率(創薬科学科)を維持した。 ○少人数による担任制を更に充実し、学習・生活支援体制の強化をはかった。 ○薬学教育評価機構(薬学科)の第三者評価(本評価)を受け、国公立大学では初めて、「岡山大学薬学部薬学科(6年制教育プログラム)」は、薬学評価機構が定める薬学評価評価基準に適合すると認定する旨の最終評価を得た。これは、本学部教育が適切に実施され、優れたものであることを第三者から評価されたとして特記できるものである。</p>
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>○三者(自己・学生・同僚)による授業評価結果からの検証と授業改善 ○シラバス(活用・記述例) ○国家試験合格率(薬学科)、就職率(創薬科学科・大学院)</p>	<p>○薬学教育評価機構(薬学科)の第三者評価(本評価)を受け、国公立大学では初めて、「岡山大学薬学部薬学科(6年制教育プログラム)」は、薬学評価機構が定める薬学評価評価基準に適合すると認定する旨の最終評価を得た。これは、本学部教育が適切に実施され、優れたものであることを第三者から評価されたとして特記できるものである。</p>
<p>②研究領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>②-1 目標</p> <p>○研究水準及び研究成果等について ・全国に先駆けて開設した「救急薬学」研究分野の発展に全面的に協力する。 ○研究実施体制等の整備について ・若手の科研費の申請書を校正し、指導する等の方法で、科研費等の外部資金獲得に努める。 ・「技術職員室」を発展的解消し、学部としての研究を支援できる業務体制を継続発展させる。 ・前年度の検証のもとに、共同機器およびその室の利用の透明化・受益者負担をはかる。 ○その他 ・数回にわたるフォーラムを通じて、徹底した「研究コンプライアンス」「研究倫理」についての指導・周知を行う。 ・価値の高い研究業績を挙げそれをホームページ等で広報する</p>	<p>●「救急薬学」研究分野の発展に全面的に協力し、神戸大学病院との連携に組み込み複数回協議会(発表会)を実施した。 ●准教授、助教クラスの科研費の申請書を複数回校正・指導し、科研費等の外部資金獲得に努めた。 ●「技術職員室」を発展的解消し、研究支援センターに組み込んだ。学生実習や共通機器管理等学部支援業務体制を確立運用した。 ●共同機器およびその室の利用の透明化・受益者負担をはかり、使用料金を学部運用に反映させた。 ●数回にわたるアドバンスフォーラムを通じて、徹底した「研究コンプライアンス」「研究倫理」「新カリキュラム」についての指導・周知を行った。 ●インパクトファクターの高い研究業績論文を挙げそれをホームページで広報した。</p>
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>○論文・著書等の研究業績の状況 ○競争的外部資金受入状況 ○学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(SSリスト) ○若手教員、女性教員、外国人教員の採用状況</p>	<p>●インパクトファクターの高い研究業績論文を挙げそれをホームページで広報した。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>③-1 目標</p> <p>○地域社会との連携、社会貢献について ・高校生や一般人を対象に薬学公開講演会を開催し、科学への関心を喚起するとともに、特に薬学に関する社会の認識を高める。 ○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について ・内蒙古大学(中国内蒙古自治区)、中国科学院昆明植物研(中国雲南省)を軸に国際交流を進める。 ・キャンパス・アジア事業に協力する。 ・インド拠点での活動を継続的に発展させる。 ○その他 ・全国の国立大学と連携した先導的薬剤師養成事業を活用して地域の薬剤師をも対象とした卒前卒後教育のシームレスな推進を図る。</p>	<p>1) 薬剤師および一般を対象として平成25年7月に公開講座を実施し、さらに高校生および一般を対象として同6月に公開講演会を実施した。2) 岡山県薬剤師会および岡山県病院薬剤師会等と連携して実施している岡山県薬剤師研修協議会の薬剤師卒後教育等の事業の一環として、日本薬剤師会の藤原理事による講演会を平成26年2月に実施した。3) 先導的薬剤師養成事業を国立14大学の連携のもとに進め、大学機能強化戦略経費事業をも活用して、講演会、シンポジウム等を開催し、これらによる生涯教育を推進した。4) 薬学部学生の早期体験実習や実務実習、コミュニティーファーマシー等の諸科目の実施を介して、岡山県薬剤師会および同病院薬剤師会との連携を進めた。5) 倉敷芸術科学大学芸術学部と部局間協定を締結し、学生間および教職員間の交流を進めた。6) 文科省が推進している「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」の一環としてインド感染症共同研究センターの事業を引き続き着実に実施した。7) キャンパス・アジア事業とも連携をとりながら、韓国・成均館大学との教育・研究交流を進めた。8) 難治性感染症プロジェクトにおける、中国・内蒙古大学(内蒙古自治区)および中国科学院昆明植物研究所(雲南省)との大学間協定の基づく共同研究および交流を進めるとともに、新たに中国・中央民族大学(北京市)との間でも教育研究交流を行った。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>○公開講演会等の実施状況 ○国際貢献の実施状況 ○地域貢献の実施状況</p>	<p>1) 薬剤師および一般を対象として平成25年7月に公開講座を実施し、さらに高校生および一般を対象として同6月に公開講演会を実施した。2) 岡山県薬剤師会および岡山県病院薬剤師会等と連携して実施している岡山県薬剤師研修協議会の薬剤師卒後教育等の事業の一環として、日本薬剤師会の藤原理事による講演会を平成26年2月に実施した。3) 先導的薬剤師養成事業を国立14大学の連携のもとに進め、大学機能強化戦略経費事業をも活用して、講演会、シンポジウム等を開催し、これらによる生涯教育を推進した。4) 薬学部学生の早期体験実習や実務実習、コミュニティーファーマシー等の諸科目の実施を介して、岡山県薬剤師会および同病院薬剤師会との連携を進めた。5) 倉敷芸術科学大学芸術学部と部局間協定を締結し、学生間および教職員間の交流を進めた。6) 文科省が推進している「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」の一環としてインド感染症共同研究センターの事業を引き続き着実に実施した。7) キャンパス・アジア事業とも連携をとりながら、韓国・成均館大学との教育・研究交流を進めた。8) 難治性感染症プロジェクトにおける、中国・内蒙古大学(内蒙古自治区)および中国科学院昆明植物研究所(雲南省)との大学間協定の基づく共同研究および交流を進めるとともに、新たに中国・中央民族大学(北京市)との間でも教育研究交流を行った。</p>
<p>【総括記述欄】 薬剤師育成と創薬研究者・技術者育成のための競争力のある学部組織基盤の構築を進めた。薬学教育評価機構からも薬学系として最初に「合格」と評価された。その成果を最大限に引き出すためにも、次年度ではこれまでの改革の実を得、次年度以降の方向を確固なものにする必要がある。</p>	